

在宅患者 電気は命綱

今夏、九州電力管内でも準備されている計画停電に、在宅で医療機器を使う患者家族が不安を募らせている。人工呼吸器やたんの吸引器、空調管理にも電力が欠かせず、仮に長時間にわたり電気が止まれば命にかかわる危険もあるからだ。九州各県は、人工呼吸器などを利用する患者の把握を進めるが、その不安を取り除く有効な対応策を打ち出すに至っていない。患者家族は「緊張の夏」を迎えようとしている。

計画停電 九州は… 募る不安

福岡県小郡市の坂田節夫の正二さん(59)は、全子さん(58)は、手動式や身の筋肉が次第に動かなくなると指定の難病「筋カタログ」を取り寄せた。萎縮性側索硬化症(ALS)



人工呼吸器やたん吸引器など、医療機器が欠かさない坂田さん。長時間の停電になれば、命に危険が及びかねない。12日、福岡県小郡市

人工呼吸器や吸引器に使用 家族「節電できぬ」

人工呼吸器は約4時間もち内蔵バッテリーと、6時間もつ外部バッテリーがある。しかし、たん吸引器は充電式で外部バッテリーはない。万が一の長時間停電に備え、節電は手動式の購入を

S)を思う。人工呼吸器を24時間外せず、電動式のたん吸引器も欠かせない。人工呼吸器は約4時間もち内蔵バッテリーと、6時間もつ外部バッテリーがある。しかし、たん吸引器は充電式で外部バッテリーはない。万が一の長時間停電に備え、節電は手動式の購入を

まくてきたらどうか…」月11日、厚生労働省の依頼を受け長崎、熊本、大分、鹿児島各県も調査を始めた。県内で約200人が人工呼吸器を使っていると、143人からアンケートの回答があり、バッテリーが3時間以上もつ人は9割いた。同県は「計画停電で予想される数時間の停電には対応できると説明。31人が24時間人工呼吸器を使っているという佐賀県は今後、バッテリーなど備えの状況を調べる。ただ、ある医療機器販売業者は「バッテリーを頻繁に使うと、消費が早くなり電池の持ちも悪くなる。小まめに点検・交換しなければならぬ」と注意を促す。(田中直子)